

紀伊水道東岸で定着したミドリイガイ (二枚貝綱, イガイ目) —和歌山県北部での初記録—

今原 幸光*・岡本 洋**・久保田 信***

Yukimitsu IMAHARA, Hiroshi OKAMOTO and Shin KUBOTA: Settlement of *Perna viridis* (Mollusca, Mytiloida) in eastern coast of the Kii Channel—First record of this species in northern part of Wakayama Prefecture—

和歌山県下において、外来種のミドリイガイ *Perna viridis* (LINNAEUS) は、これまで中南部の田辺湾および串本町の周辺海域で生体や貝殻が記録されていた(田名瀬・久保田, 1996, 1997, 未発表データ; 前岩, 2000)。今回、和歌山県北部の漁港で生貝を含む複数個体および多数の貝殻を採取したので、これまでのその海域での目撃情報とともに記録し、紀伊水道東岸での定着の確認とその由来について考察する。

和歌山県北部沿岸に出現したミドリイガイ幼貝の採集記録

1. 3個体の生貝

採集年月日 2000年12月22日

採集場所 和歌山市雑賀崎漁港の岸壁から垂下されたロープに密集して付着したチレニアイガイ *Mytilus edulis galloprovincialis* に混生、水深1m

前後軸長 30 mm (生貝), 22.8 mm (生貝: 和歌山県立自然博物館所蔵標本 WMNH-INV-2000-6), 19 mm (軟体部欠如) の計3個体

注記 3個体とも付着後1年以内の未成熟個体。カイヤドリヒドラ類 (KUBOTA *et al.*, 1999 参考) は共生せず。ただし、チレニアイガイにはカイヤドリヒドラ類は高率で共生 (75%, N=28, 前後軸長 21-70 mm) し、オオシロピンノ *Pinnotheres sinensis* も雌1個体ずつ同時共生のこともあり。

2. 多数の貝殻

採集年月日 2001年2月17日

採集場所 和歌山県雑賀崎漁港の船揚場 (上記1の場所から数百m地点)

前後軸長 9-36 mm (N=208)

注記 少なくとも2艘の小形漁船の船底から掻き落とされたもので、両殻が揃っているものでは軟体部が残存しているものもあった (23/43 個体) が、ほとんどの個体は左右の貝殻が分離し、軟体部が消失していた (左殻数=218; 右殻数=245)。いずれも付着後1年以内の若い個体で、以下に記す同時発見の付着動物からみて、本港内で生育したものと推定される。

同時発見の主な付着動物

多数個体: チレニアイガイ, マガキ, アメリカフジツボ, サンカクフジツボ, タテジマフジツボ, シロスジフジツボ; 少数個体: ヒバリガイモドキ; 1個体: シマメノウフネガイ

紀伊水道東岸におけるミドリイガイの出現記録のまとめと由来についての考察

日本沿岸におけるミドリイガイの分布は、太平洋沿岸に限られ、養殖のため移植した沖縄本島を除き、紀伊半島西部沿岸から東京湾にかけての限定された海域で記録されている (植田, 2000)。1990-1991年にかけては、大阪府沿岸に広く分布していた記録がある (有山, 1992)。従って、上記の新産地は、大阪湾を含む紀伊半島西部沿岸におけるこれまでの分布域の間を埋める記録となった。本記録は、和歌山県北部沿岸で生貝が出現した正式な記録となったが、この海域では、既に1991年11月30日に日高町阿尾沖で底引き網に入網したミドリイガイ (前後軸長 20-30 mm の生貝40個体がロープに密集して付着) の記録がある (和歌山県立自然博物館, 未発表; 植

* 和歌山県立自然博物館 (〒642-0001 和歌山県海南市船尾370-1) Wakayama Prefectural Museum of Natural History, Funao 370-1, Kainan, Wakayama 642-0001, Japan

** 〒641-0052 和歌山県和歌山市東高松3-1-28 3-1-28 Higashitakamatsu, Wakayama, Wakayama 641-0052, Japan

*** 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町) Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

田, 2000)。さらに, 和歌山県北部沿岸でのミドリイガイの出現に関する3つの情報(今原, 未発表)がある:(1) 日高郡由良町の三井造船由良ドック内で, 1万トン級タンカーの船底から掻き落とされた付着生物中に, 前後軸長60 mm程度の生貝を今原が目撃(1983年); (2) 和歌山港の紀ノ川河口北側の護岸に付着しているチレンアイガイ群集内に, 少数個体のミドリイガイが混成との目撃情報が今原より今原に寄せられた(1993年); (3) 和歌山市田野浦漁港の養殖筏のブイにミドリイガイが付着していたとの目撃情報が花野氏から今原に寄せられた(1997年)。

以上のことから和歌浦港内での幼貝の出現がみられるのは今から数年前に遡った頃からであると推察される。ミドリイガイの自生地である台湾以南のインド・西太平洋から黒潮に乗った幼生の輸送・定着, および船舶のバラスト水に混入した幼生の定着・成長による出現よりも大阪湾を含む紀伊半島西部沿岸で定着した個体が繁殖した結果であろう。

謝 辞

和歌山県北部沿岸におけるミドリイガイの出現情報をお知らせ下さった株式会社海洋生態研究所所長の大道

夫氏と和歌山県自然博物館学芸員の花野政之氏に感謝致します。

引用文献

- 有山啓之. 1992: 大阪湾のミドリイガイ. *Nature Study*, **38**(1), 9-10, 12.
- KUBOTA, S., C.-F. DAI, C.-L. LIN & J.-S. HO. 1999: The first occurrence of the pedomorphic derivative hydrozoan *Eugymnanthea* (Leptomedusae, Eireniidae) from Taiwan, with a report of a new host. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, **38**(5/6), 219-222.
- 前岩 崇. 2000: ミドリイガイの報告. 本覺寺村貝, (31), 34.
- 田名瀬英朋・久保田信. 1996: 和歌山県田辺湾のミドリイガイ(二枚貝綱, イガイ目). *南紀生物*, **38**(1), 11-12.
- . 1997: ミドリイガイ(二枚貝綱, イガイ目)は和歌山県田辺湾で冬越し可能. *南紀生物*, **39**(1), 21-22.
- 植田育男. 2000: 日本沿岸におけるミドリイガイの分布. *動物園水族館雑誌*, **41**(2), 45-53.